令和6年度岐阜県献血推進協議会

議事要旨

1 日 時 令和7年2月17日(月) 13:30~15:00

2 場 所 日本赤十字社岐阜県支部 2階会議室

3 出席者

所 属 会 名	役職名	氏 名
一般社団法人岐阜県医師会	会長	伊在井 みどり
一般社団法人岐阜県病院協会	会長	松波 英寿
一般社団法人岐阜県薬剤師会	会長	棚瀬 友啓
岐阜県高等学校長協会	副会長	西脇 勝己
岐阜新聞社	報道部部长	箕浦 由美子
岐阜大学医学部附属病院	助教	松本 拓郎
一般社団法人岐阜県経営者協会	事務局長	坂 賢司
日本労働組合総連合会岐阜県連合会	副事務局長	堀 武彦
大垣市赤十字奉仕団	副委員長	栗田 ひろ子

【事務局】

所 属	役 職	氏 名
岐阜県健康福祉部	部長	丹藤 昌治
岐阜県健康福祉部薬務水道課	課長	居波 慶春
	献血運動推進監	中丸 慶彦
	技術主査	林 小夏
	主任技師	加藤 大和

【関係機関】

所 属	役 職	氏 名
岐阜県赤十字血液センター	所長	高橋 健
	事業部長	岩崎 秀一
	総務課長	佐橋 昌邦
	献血推進課長	野村 雅之
	推進一係長	岡部 裕晃
	推進二係長	大野 茂
	主事	小森 真喜
	主事	北村 莉子
	献血推進課職員	佐伯 俊也
岐阜県教育委員会体育健康課	課長補佐兼学校保健係長	池田 勉
岐阜市保健所	主任	西川 智子
岐阜保健所	主任技師	瀬尾 愛加
岐阜保健所本巢・山県センター	技術主査	豊田 由起子
西濃保健所	技術主査	廣澤 智子
西濃保健所揖斐センター	主任技師	伊藤 茉諭美
関保健所	課長	伏屋 明彦
関保健所郡上センター	所長兼課長	永井 磨智
東濃保健所	技術主査	井原 尚美
飛騨保健所下呂センター	主事	東田 聖美

4 次第

(1) あいさつ

(2) 議題

ア 役員の改選について

イ 令和7年度岐阜県献血推進計画（案）について

(3) 報告

ア 令和6年度献血推進等事業の概要について

イ 令和6年度献血及び供給の実績について

ウ 令和6年度岐阜県合同輸血療法委員会活動について

5 議事要旨

冒頭、岐阜県健康福祉部丹藤部長からあいさつを行った。

岐阜県献血推進協議会会則第8条の規定に基づき、役員の改選を行った。

岐阜県献血推進協議会会長の岐阜県医師会伊在井会長からあいさつを行った。

岐阜県献血推進協議会会則第7条第1項の規定に基づき、伊在井会長が議長となり議事を進行した。

議題 イ 令和7年度岐阜県献血推進計画（案）について

事務局中丸献血運動推進監から資料に基づき説明を行った。

<伊在井会長>

ただ今の説明について、ご意見ご質問はあるか。

<松波副会長>

他県と比べて献血率が低い。他県と岐阜県でやっていること、やっていないことを明白にして、認識することが大事。献血の「献」は多少の自己犠牲を払ってでも他人を助けるという意義がある。一番根源となる人間性教育、学生への教育を計画にも入れていただき、献血することによって喜びが得られることを教育してほしい。

<伊在井会長>

教育という面で今回新たに計画に DVD の作成等が書いてあるが、この内容についてお聞かせいただきたい。

<事務局>

献血セミナーの開催について、学校側からカリキュラムの都合上難しい等の意見があるため、DVD を作成して配布することで開催を促進していく。

献血は無償のボランティアであることを理解し、生徒自身が献血したいと思えるようなコンテンツにするため、血液センターと内容を検討し意味のあるものにした。

<伊在井会長>

そういった資料を使っていただく立場として、高校校長協会様、ご意見いかがか。

<西協会員（高等学校長協会）>

高校年代で献血を経験すると、大人になったときにリピーターが増えると血液センターから聞いたので、本校でも献血バスを配車してもらい、百数十人の生徒が献血をした。高校生の多くは人の助けになりたい、社会に貢献したいと思っている。DVD だけでなく先生が集まる会議等でも現状を共有し、献血の理念や思いを教育の現場に入れていくことが大事。

<伊在井会長>

岐阜県の献血率が低いことや世界と比較して日本の現状などお聞かせいただきたい。

<血液センター 高橋所長>

岐阜県の献血率はここ数年全国 45 位、46 位という状況。少しだけ、岐阜県で使う血液を岐阜県内でまかなえていない。

アメリカでは献血会場にお菓子がたくさんあったり、複数回協力するとテーマパークのチケットがもらえるといったような推進活動をしている。日本赤十字社では様々な制約もあるが、岐阜県ではライオンズクラブ等に支援いただきながら記念品の提供等を実施している。

<伊在井会長>

経営者協会様、ご意見いかがか。

<坂会員（経営者協会）>

献血推進の裾野が広がっていない。県公式インスタグラムのフォロワーもまだまだ少ない。県、市町村職員で 4~5 万人ほどいるが、それぞれの庁内で献血の啓発をしているか疑問に思う。自分たちの身内から声をかけていくべきではないか。

<伊在井会長>

日本労働組合総連合会様、ご意見いかがか。

<堀会員（日本労働組合総連合会）>

会社への献血バスの配車は血液センターと各組合と調整して年 1、2 回程度実施していると思うが、新たに配車先を増やしていくこともしていただきたい。組合員へのチラシの配布なども協力できる。

<伊在井会長>

岐阜大学松本先生、ご意見いかがか。

<松本会員（岐阜大学医学部附属病院）>

若者の献血に関しては、輸血部ということもあり、授業でも学生に献血をするよう話している。引き続き拡大できるように輸血部の方で何かできないか考えたい。

<伊在井会長>

県薬剤師会様、ご意見いかがか。

<棚瀬会員（県薬剤師会）>

神奈川県 25 年度予算にモデル事業があった。献血後の血液検査データを持って薬局へ行き、健康相談等をした上で再度献血にいくと、引換券がもらえ、その回数によってはワイヤレスイヤホンがもらえるといったもの。

薬業界の中で献血実績の多い配置販売業では、関連会社が多いので、トップダウンで献血バス配車時に人を集めている。薬局ではそういったことは難しいかもしれないが、医療人としての人間形成に役に立つということで、薬学部5年生の実務実習で血液センターの見学をするなど具現化していきたいと思う。

<伊在井会長>

岐阜新聞社様、ご意見いかがか。

<箕浦会員（岐阜新聞社）>

情報の出し方を効率よくして、聞かせたい相手にいかに届けるかを考えていかないといけない。若い方の献血率が低いのは、正しく情報が届いていないということ。

社会に貢献したいと思っている若者は多く、災害や防犯のボランティアなど、組織化を上手にしているところは動員が続いている。献血に関わることでいい人間になっていくという実感をフィードバックしていく仕掛けを取り入れていくと良い。

<伊在井会長>

大垣市赤十字奉仕団様、ご意見いかがか。

<栗田会員（大垣市赤十字奉仕団）>

献血バスの配車時に広報の手伝いとして年に数回参加している。平日は年配の方が買い物に来られており、献血を呼び掛けても、年齢や服薬を理由に断られることが多いが、家に帰ったら、お子さん、お孫さんにこういうことをやっていたと声をかけてほしいと言っている。自身も夫や孫が献血をしていたり、家族で献血について話をしている。

<伊在井会長>

ボランティアに興味があるけど何をしたいかわからないという人たちには、DVDを見ていただくことなどが役に立つと思う。

岐阜県で不足している血液は、愛知県からまかなわれるのか。

<血液センター 高橋所長>

今は東海北陸の7県で、ブロック単位で相補的に行っている。

<伊在井会長>

多くのご意見をいただき感謝申し上げます。

令和7年度岐阜県献血推進計画については、事務局案で進めさせていただく。

報告 ア 令和6年度献血推進等事業の概要について

報告 イ 令和6年度献血及び供給の実績について

事務局中丸推進監から資料に基づき説明を行った。

<伊在井会長>

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はないか。

献血運動の実施について、7月、8月と12月、1月にキャンペーンの実施時期が固まっているが、理由があるか。

<事務局>

基本的には大きなキャンペーンのみを掲載している。この他にも日頃から啓発事業は実施している。

<血液センター 高橋所長>

血液センターでは、県が企画するキャンペーン以外にも、事業本部、東海北陸ブロック、岐阜県血液センターそれぞれで企画するキャンペーンがあり、通年的にキャンペーンを行っている。

<伊在井会長>

高校生の献血者数が増えていることについて、高校校長協会様、ご意見いかがか。

<西脇会員（高等学校長協会）>

コロナ禍が明けて献血をする意識が戻ってきたということではないか。献血の量が増えていないことが伝わってきており、高校現場としては社会に貢献する意識があるため、今後とも協力していきたい。

<伊在井会長>

移動採血車の稼働台数が減ってきているのは、どのような理由か。

<血液センター 高橋所長>

血液センターでは、令和5年3月に岐阜献血ルームアクティブGをオープンしたが、それまでの新岐阜献血ルームに比べ、ベッドを増やしたほか、基本的に休みがないため、アクティブGに人員をシフトしている。その結果、移動採血車の稼働台数が減っている。

報告 ウ 令和6年度岐阜県合同輸血療法委員会活動について
事務局中丸献血運動推進監から資料に基づき説明を行った。

(意見なし)

その他

<伊在井会長>

これまでの議題、報告について改めてご意見はあるか。

<堀会員（日本労働組合総連合会）>

血液事業施設等を見学するツアーとは、どのような施設の見学を想定しているのか。また、対象が若年層となっているが企業等で施設見学をしたいとなった場合、施設に受けていただくことは可能なのか。

<事務局>

見学先の施設は、岐阜県赤十字血液センターと東海北陸ブロック血液センターを想定しており、小・中学生、高校生及びその保護者を対象として募集し、夏休み期間に実施する。なお、両施設とも随時見学を受け付けているとのことである。

<棚瀬会員（県薬剤師会）>

献血ルームがない地域では、献血バスの配車を待っている人がいると思うが、事前にリピート性のあるアナウンスが有効である。SNSを利用した情報発信では、専門家へ依頼はしているのか。

<事務局>

専門的な知識を持った方に業務委託している。

<棚瀬会員（県薬剤師会）>

岐阜県では、車で移動する方が多いため、SNSで広報するときには、車で来やすいことや駐車場があることを広報するとプラスになると思う。

<松波副会長>

過去に輸血用血液が足りず、ラジオ局に血液がなく困っていると伝えたところ、助けようと多くの方が駆けつけてくれたことがある。困っていることを伝えれば答えてくれる方はたくさんいる。それが伝わっていないため、血液が足りないと助けられないということをしっかり伝えることを考えないといけない。

<血液センター 高橋所長>

1~2 か月で再度献血いただける方もたくさんおり、多くの方がそういった気持ちを持っていただいていることは非常にありがたいことである。こうした中で、コンスタントに協力いただける人を増やしていくことが大事である。

献血者と患者さんの思いを繋ごうということで、献血した人に簡単なアンケートフォームで気持ちを記入していただき、一覧としたものを患者さんに届けたいと考えている。今度は、患者さんからの言葉を記入していただくことで、匿名化した双方向の繋がりを作りたいと思っている。各医療機関の皆様には協力してほしい。

<松本会員（岐阜大学医学部附属病院）>

骨髄バンクのドナーさんの場合、ドナーさんからの手紙を患者さんに渡したりすることがある。献血された方から輸血をされる方への手紙や気持ちを匿名化し、SNSで皆さんに伝わると、協力いただける方も増えるのではないかと思う。

<伊在井会長>

以上で本日の議題は全て終了とし、円滑な議事進行への協力に感謝申し上げます。